

もりぎょう



宮城つながる森業交流祭



～森林づくり・木づかいの新しい動きとその魅力～

ポスターセッション・ふれあい会場（大会議室「萩」）10:00～16:00

8つのテーマごとにコーナーを設けて、パネルやじかに触れていただきたいCLT製品などを展示し、担当者から説明を加えます。お子様連れの方にもお楽しみいただけるよう「木のおもちゃ広場」を用意しています。お気軽にご入場ください。

みやぎ森と木づかい魅力発見キャンペーン（平成30年8月～10月末）「写真の森」展示

みやぎ森と木づかい魅力発見キャンペーンに応募された写真を「写真の森」として展示します。「身近にある森林や里山の風景」、「森林づくりや林業で頑張っている人」、「すてきな木造施設」などの身近な写真約200点を集めました。この機会にぜひ御覧ください。

① 東日本大震災からの歩み（海岸林、特用林産物）

- 1 名取市の被災農家さんと進める「海岸林再生プロジェクト」
《展示者》公益財団法人オイスカ
- 2 国・県による海岸林復旧の取組
《展示者》東北森林管理局、宮城県
- 3 特用林産物の生産再開に向けた取組
《展示者》宮城県

② 参加と交流の森林づくり

- 4 県民・企業等みんなの森林づくり活動（25の団体・企業）
 - 公益財団法人オイスカ・名取市海岸林再生の会
 - 特定非営利活動法人わたりグリーンベルトプロジェクト
 - 宮城県土地改良事業団体連合会（水土里ネットみやぎ）
 - ネットヨタ仙台株式会社
 - 一般社団法人宮城県建設業協会
 - 仙台ふるさとの杜再生プロジェクト連絡会議
 - イオンリテール株式会社
 - 七十七銀行
 - クマイ化学工業株式会社
 - ゆりりん愛護会
 - JXTG エネルギー株式会社
 - 東北ミサワホーム株式会社
 - 東北発電工業株式会社
 - 株式会社東日本放送
 - トヨタ紡織東北株式会社
 - 公益財団法人ニッセイ緑の財団
 - 鈴木工業株式会社
 - 住友生命保険相互会社
 - カメイ株式会社
 - 三菱電機株式会社東北支社
 - ニッカウキスキー仙台工場
 - ネットヨタ仙台株式会社
 - 三菱商事株式会社東北支社
 - 高砂熱学工業株式会社仙台支社
 - コカ・コーラボトラーズジャパン

- 5 高校生と小学生の森林学習交流会
《展示者》宮城県栗田農林高等学校

- 6 森林づくり・森林学習支援
《展示者》宮城県森林インストラクター協会

- 7 次代へつなげよう！県民協働の森林づくり
《展示者》宮城県緑化推進委員会

- 8 私たちの暮らしと水源の森林（もり）づくり
これからの作業道づくり～丈夫で簡易な作業道づくりの実践～
《展示者》国立研究開発法人森林研究・整備機構
森林整備センター東北北海道整備局

③ 広げよう「木育」

- 9 木のおもちゃ広場
《展示者》宮城県木材協同組合
- 10 木育を進めよう！
《展示者》宮城県林業振興協会
- 11 SCRの木づかい
《展示者》NPO法人SCR

④ 新建材・CLTの魅力

- 12 宮城県CLT等普及推進協議会による製品展示と解説
《展示者》宮城県CLT等普及推進協議会

⑤ 躍動する林業の担い手

- 13 登米市・南三陸町のFSC認証取得
《展示者》登米市森林管理協議会、南三陸森林管理協議会
- 14 地域の森林整備を進める森林施業プランナー
《展示者》栗駒高原森林組合
- 15 林業への就業・技術取得支援
《展示者》宮城県林業労働力確保支援センター

⑥ 森林や木材の研究

- 16 東北大学大学院 農学研究科（学生）研究成果
《展示者》東北大学大学院学生
- 17 尚綱学院大学 環境構想学科（学生）里山の昆虫
《展示者》尚綱学院大学学生
- 18 宮城県林業技術総合センター研究成果
《展示者》宮城県林業技術総合センター

⑦ 新法が成立した「森林経営管理制度」

- 19 「森林経営管理制度」の紹介
《展示者》宮城県

⑧ 森の風景

- 20 森林を主体にした四季の風景写真展示
《展示者》日本風景写真協会宮城支部

宮城つながる森業交流祭実行委員会事務局

（宮城県農林水産部林業振興課企画推進班）

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ringyo-sk/>

TEL: 022-211-2911 FAX: 022-211-2919

〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号



平成30年11月19日（月）10:00～16:00

会場 仙台国際センター 2階（宮城県仙台市青葉区青葉山）
主催 宮城県

主催者あいさつ

平成30年4月に「みやぎ森と緑の県民条例」が施行されたことを記念し、もりづくりや森林の多面的機能、木材利用の意義、全国から支援をいただいている海岸防災林の復旧状況などを県内外へ発信することを目的に、森林の整備や利用に関わる多くの方々が集う「宮城つながる森業交流祭」を開催いたします。

同条例に基づき、県民・企業・地域、そして復興への感謝をこめた全国との交流・連携・協働の取組を通じ、「宮城らしい持続可能な未来を創造する森林、林業・木材産業」の実現をめざしてまいりますので、今後とも皆さまの御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

宮城県知事 村井 嘉浩

後援者

林野庁、宮城県林業団体連絡協議会、宮城県CLT等普及推進協議会、仙台経済同友会、（一社）宮城県建設業協会、七十七銀行、農林中央金庫仙台支店、（財）みやぎ林業活性化基金、宮城県特用林産振興会、宮城県林業研究会連絡協議会、NPO法人宮城県森林インストラクター協会、宮城県森林組合連合会、宮城県木材協同組合、宮城県林業経営者協会、（一社）宮城県林業公社、（公社）宮城県緑化推進委員会、宮城県林業振興協会、宮城県農林種苗農業協同組合、宮城県森林整備事業協同組合、宮城県木材チップ工業会、（一社）宮城県建築士事務所協会、（一社）宮城県建築士会、（公社）日本建築家協会東北支部宮城地域会、（一社）日本建築構造技術者協会東北支部、（一社）東北建築構造設計事務所協会、日本風景写真協会宮城支部、国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林整備センター東北北海道整備局、河北新報社、TBC 東北放送、ミヤギテレビ、仙台放送、NHK仙台放送局、KHB 東日本放送、エフエム仙台
※順不同

宮城つながる森業交流祭 プログラム

表彰・シンポジウム会場（大会議室「橘」）

第1部 10:30～12:00

森林づくり講演会

講演:多種共存の森 — 持続的な木材生産による地域の再生 —

森林の種多様性の維持メカニズムとその再生の方法、その恵み、そして共存しながら林業を行い地域を再生させる仕組みを探る。

東北大学大学院農学研究科 教授
清和 研二氏
プロフィール

1954年山形県楡引村、現在の鶴岡市黒川で生まれ、北海道大学農学部を卒業後、北海道立林業試験場研究職員、東北大学助教授を経て、現職。現在は専門分野である森林生態学に関する研究、学生の指導を行っている。

第2部 13:00～16:00

「森林づくり月間」「木づかい月間」制定宣言

13:00～13:15

知事が「森林づくり月間」「木づかい月間」の制定を宣言します。

森林づくり月間 4～5月・9～10月
木づかい月間 9～11月

「森林づくり表彰」「木づかい表彰」

13:15～13:25

森林・林業の振興発展に顕著な功績があった10団体・企業に対し、知事から感謝状を贈呈します。

森林づくり表彰

1 宮城県農林種苗農業協同組合

県内の造林種苗の供給や全国に先駆けコンテナ苗の生産技術の確立に取り組むなど、育苗技術の研鑽に努めている。東日本大震災後は、海岸防災林の復旧に必要な抵抗性クロマツのコンテナ苗生産に着手し、海岸林の再生と本県の復興に大きく寄与している。

2 特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会

平成18年度から「私たちの森づくり事業実施協定」を県と締結。これまで森づくり活動の企画・技術指導等を行いながら、森林文化の継承や環境保全に携わる後継者の育成に積極的に取り組み、地域と一体となった森づくり活動に寄与している。

3 JXTGエネルギー株式会社

NPO法人宮城県森林インストラクター協会が県と締結した「私たちの森づくり事業実施協定」の森林(県有林)で命名権を取得。「宮城県ENEOSの森」と命名し、同協会と協働による森づくりを行い10年が経過。長期にわたる社員の森づくり活動により、森林が持つ多面的機能の維持・増進に寄与している。

4 東北ミサワホーム株式会社

平成18年度から県と締結した「私たちの森づくり事業実施協定」の森林(県有林)で命名権を取得。「MISAWAオーナーの森宮城」と命名し、社員による森づくり活動を行い10年が経過。長期にわたる森づくり活動により、森林が持つ多面的機能の維持・増進に寄与している。

5 東北発電工業株式会社

平成20年度から県と締結した「私たちの森づくり事業実施協定」の森林(県有林)で命名権を取得。「とうはつの森」と命名し、史跡「岩切城跡」の荒廃した森林を整備するなど森づくり活動も10年を経過。今では地域住民も散策できる良好な森林環境となった。長期にわたる社員の森づくり活動により、森林が持つ多面的機能の維持・増進に寄与している。

木づかい表彰

1 特定非営利活動法人SCR

多くの子供たちに「木」の魅力とものづくりの醍醐味である創意工夫と達成感を伝えるため、設立以降継続して木工教室を開催している。また、森林の大切さや木の役割を伝える木工活動を継続しており、県産材利用の普及拡大にも大きく寄与している。

2 一般社団法人 女川町復興公営住宅建設推進協議会

東日本大震災の被災住宅の復興に向け、地域の特性を活かした災害公営住宅を建設するため、県産材を使用した公営住宅を女川町に提案し、298戸の災害公営住宅の整備を行った。地元企業と連携し県産材の使用割合は6割を超え、復興と同時に県産材利用にも大きく寄与した。

3 登米市森林管理協議会

平成28年12月に市有林2,717haのFSC森林管理認証(FM認証)を取得。その後もグループ認証により認証面積は8,475haに拡大。また、市内の製材加工事業のCoC認証取得を支援し、生産流通体制の整備に尽力している。現在は、「林業成長産業化地域構想」(林野庁)のモデル地域に選定され、全国的にも先駆的な取組を推進している。

4 一般社団法人 名取市復興公営住宅建設推進協議会

東日本大震災の被災住宅の復興に向け、地域の特性を活かした災害公営住宅を建設するため、地元流通業者からの県産材調達、建設を担う地元関連業者の公募等を提案。平成30年12月までに270戸の災害公営住宅の整備が完了する予定。地元企業と連携し県産材の使用割合は6割を超え、復興と同時に県産材利用にも大きく寄与した。

5 宮城県CLT等普及推進協議会

県産材を活用したCLT等の普及推進を目的に、平成28年2月に設立。設立後は産学官が連携し、木造施設的设计・施工技術者の育成、CLT等の木製品を活用した木造施設の建設を推進している。平成29年12月には、「東北大学建築CLTモデル実証棟」を完成させるなど、CLT、LVL等県産材製品の普及PRに大きく貢献している。

シンポジウム 13:35～16:00

コーディネーター:富士大学 学長 岡田 秀二氏
プロフィール

岩手大学農学部卒業、岩手大学農学部教授を経て2015年度から現職。林政審議会前会長。宮城県産業振興審議会委員、同水産林業部会長を始め、国・県などの各種審議会や委員会の長を歴任。専門は森林政策学、山村経済論、地域おこし論。著書は「森林・林業再生プランを読み解く」、「地域開発と山村・林業の再生」など。

1 宮城の林業・木材産業の魅力と目指す姿

県では、平成30年4月に施行された「みやぎ森と緑の県民条例」の基本計画として「新みやぎ森林・林業の将来ビジョン」を策定しました。

本県の林業・木材産業の魅力にふれながら、基本計画に掲げた森林、林業・木材産業の将来像について紹介します。

宮城県農林水産部林業振興課
技術補佐 猪内 太郎

2 南三陸町の国際森林認証(FSC)取得等の取組

南三陸町では、東日本大震災を乗り越え、山・里・川・海の豊かな自然を活かした町づくりを目指し、国際森林認証(FSC)を取得。その後、南三陸町役場の全体プロジェクト認証を取得するなど全国から注目されており、こうした、新たなビジネスモデルなどを紹介します。

南三陸森林管理協議会
佐藤 太一氏
プロフィール

南三陸森林管理協議会、株式会社佐久専務取締役。宮城県内でFSC(FM)認証を初めて取得した県内のFSCの第一人者。FSC材を使用した南三陸町役場の建設プロジェクトに主体的に取り組み、平成29年9月に公共建築物で全国初の「全体プロジェクト認証」に導いた。

3 木造の建築が未来の街を変える ～宮城県CLT等普及推進協議会の取組～

平成28年2月に産学官が参画した「宮城県CLT等普及推進協議会」が設立され、県産木材の需要拡大に向け、CLT、LVL等新たな県産材製品の普及啓発を行っています。CLTとは何か、CLTを使って建築された国内外の魅力的な建築について紹介をします。また、同協議会が行っているCLTモデル施設の建設や木造建築に係る技術者等育成などの取組についても紹介します。そして、木造建築が創る未来の街について考えてみます。

東北大学大学院 教授
前田 匡樹氏
プロフィール

兵庫県神戸市出身。東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修了。東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻建築構造工学講座性能制御システム学分野。専門は建築構造・材料(鉄筋コンクリート構造)、建築構造(耐震設計)、自然災害科学(地震工学)。平成27年度から宮城県CLT等普及推進協議会に参加、宮城県内のCLT等県産材製品の普及推進や木構造技術者の人材育成に向け積極的に活動している。

4 海岸防災林の再生に向けた保育活動等の取組

津波で被災した名取市海岸防災林100haの再生のために、公益財団法人オイスカ及び被災農家等で結成された名取市海岸林再生の会と林業事業体との連携による育苗・造林・保育の一貫施業、年間2,300人の県内外のボランティア参画による保育作業の補完、将来に向けた人づくりと、全国の海岸林保全の先例を紹介します。

公益財団法人オイスカ
吉田 俊通氏
プロフィール

東京経済大学卒業後、1994年オイスカに奉職。2007年に退職し相模原市の林業会社サトウ草木を経て2009年に復職し、東日本大震災後は、名取市海岸林再生の会と連携し、海岸林の再生に尽力している。

“宮城つながる森業”とは・・・

大震災を経験した私たちは、「宮城らしい持続可能な未来を創造する森林、林業・木材産業」の実現をめざして、関係者同士のつながり、林業・木材産業と県民・企業・地域、特に若い世代とのつながり、復興応援への感謝をこめた全国とのつながりなど、交流・連携・協働の取組を進めます。